

令和元年度県民健康調査「健康診査」 (15歳以下) 結果報告

<補足事項>

※小児健康診査の実施時期について

平成23年度 : 平成24年1月～3月

平成24年度～令和元年度 : 当該年度7月～12月

※肥満度は、身長、体重の測定値から肥満度(BMI)と肥満度の標準偏差スコア(BMI SDS)を算出し、平成23年度と令和元年度を比較した。

※血液検査では年齢による変動が大きく、また、0～6歳と7～15歳に区分しており、経年的な変化を比較することが出来ないため、断定的なことは言えない。

※集計結果の表章記号の規約は、厚生労働省の人口動態調査と同様に表記した。

計数のない場合 —

比率が微小(0.05未満)の場合 0.0%

※参考資料

平成23～26年度 ; 第21回検討委員会資料3-2「健診項目別受診実績基礎統計表」

平成27年度 ; 第26回検討委員会資料3-2「健診項目別受診実績基礎統計表」

平成28年度 ; 第30回検討委員会資料2-3「健診項目別受診実績基礎統計表」

平成29年度 ; 第34回検討委員会資料2-3「健診項目別受診実績基礎統計表」

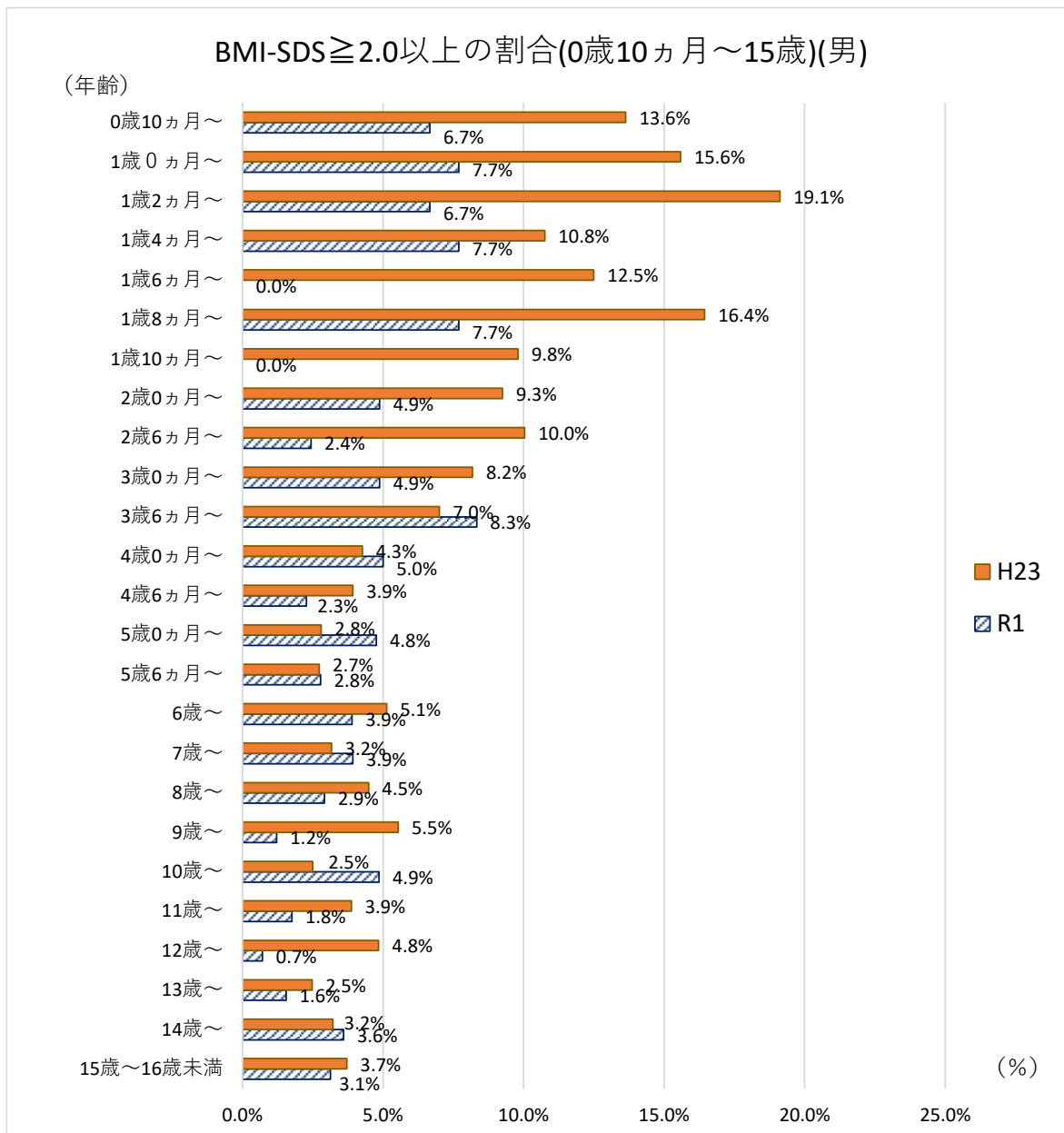
平成30年度 ; 第37回検討委員会資料4-4「健診項目別集計結果」

身体検査（BMI-SDS（肥満の割合））

1 結果

肥満の割合は、男子の3歳6ヵ月～4歳6ヵ月未満、5歳～5歳6ヵ月未満、7歳～8歳未満、10歳～11歳未満、14歳～15歳未満において、平成23年度に比べ令和元年度の方が高かった。

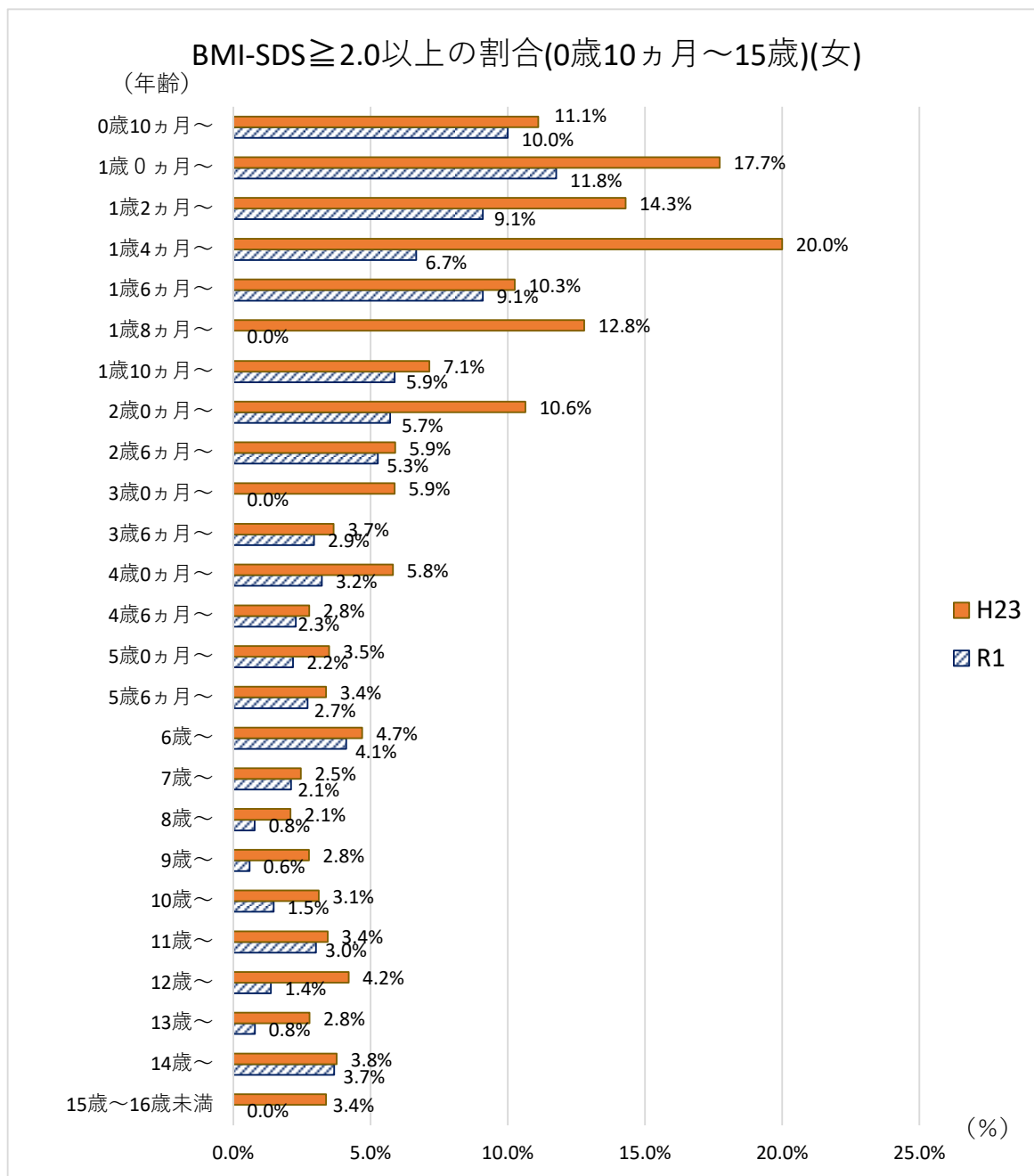
5歳6ヵ月～6歳未満は同程度であった。



引用（計算用ファイル）：日本小児内分泌学会・日本成長学会成長研究委員会：

http://jspe.umin.jp/medical/chart_dl.html（最終アクセス日：2020年10月13日）

肥満の割合は、女子の全ての年齢区分において平成 23 年度に比べ令和元年度の方が低かった。



引用 (計算用ファイル) : 日本小児内分泌学会・日本成長学会成長研究委員会 :

http://jspe.umin.jp/medical/chart_dl.html (最終アクセス日 : 2020 年 10 月 13 日)

2 項目の説明 (肥満度)

身長、体重の測定値から肥満度(BMI)と肥満度の標準偏差スコア(BMI SDS)を算出することで、成長期にある小児の肥満度をみます。

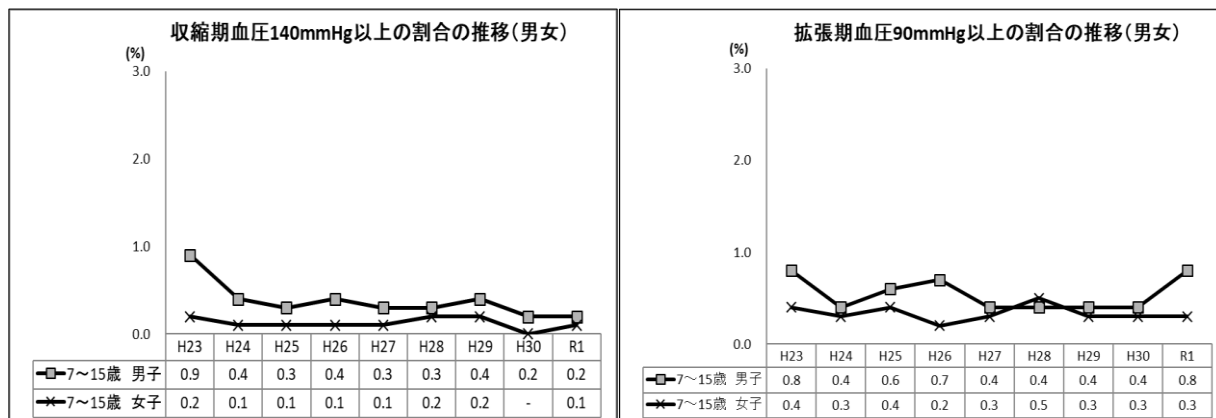
3 参考基準値

項目	肥満
BMI-SDS	\geq 2SD

身体検査（血圧）

1 結果

高血圧者は、全年度で女子と比較して男子の方が多く傾向がみられた。男子では平成 23 年度が最も多く、その後減少傾向がみられたが、令和元年度の拡張期血圧は平成 23 年度と同程度であった。女子は大きな変化はみられなかった。



※収縮期血圧 140mmHg 以上および拡張期血圧 90mmHg 以上は、16 歳以上の集団健診・個別健診で使用している判定基準。

2 項目の説明（血圧）

血圧の状態を確認します。高血圧症などを見つけます。

3 参考基準値

正常血圧値

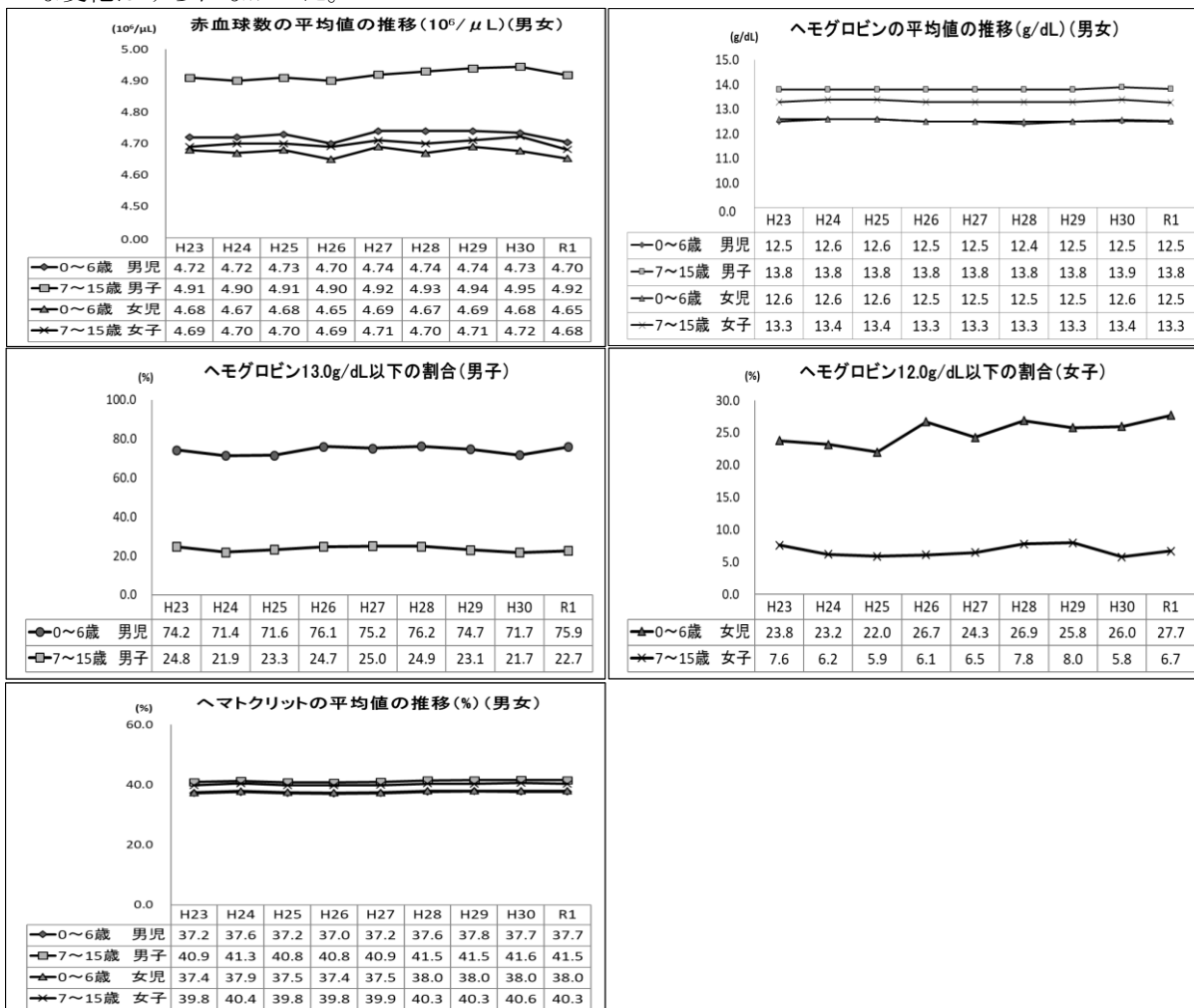
年齢	収縮期血圧 (mmHg)		拡張期血圧 (mmHg)	
	男児	女児	男児	女児
新生児(生後 1 日目)	60~76	60~74	31~45	30~44
新生児 (4 日目)	67~83	68~84	37~53	35~53
乳児 (1 か月)	73~91	74~94	36~56	37~55
乳児 (3 か月)	78~100	81~103	44~64	45~65
乳児 (6 か月)	82~102	87~105	46~66	48~68
乳児 (1 歳)	86~104	85~103	40~58	37~58
小児 (2 歳)	88~105	88~106	45~63	42~61
小児 (7 歳)	96~113	97~115	57~75	57~76
思春期 (15 歳)	110~127	113~131	65~83	64~83

参照：American Heart Association. PALS プロバイダーマニュアル. AHA ガイドライン 2010 準拠. 日本語版. 東京：シナジー；2013.

末梢血液検査（赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット）

1 結果

赤血球数、ヘモグロビンおよびヘマトクリットは、男女ともに全ての年齢区分において大きな変化はみられなかった。



※ヘモグロビン男子 13.0g/dL 以下および女子 12.0g/dL 以下は、16歳以上の集団健診・個別健診で使用している判定基準。

2 項目の説明（赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット）

貧血などの種類と程度をみます。

3 参考基準値（小児臨床検査ガイドより引用：2017年版）

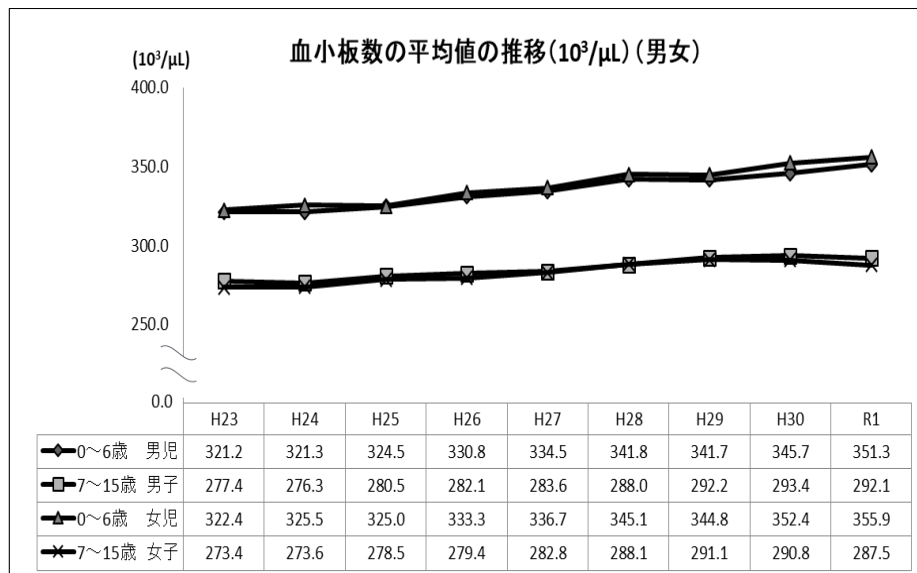
年齢	赤血球数 (x10 ¹² /L)	ヘモグロビン (g/dL)	ヘマトクリット (%)
生下時	5.25±0.40	16.6±1.5	53±4.5
1日	5.14±0.60	19.0±2.0	58±5.5
1週	4.86±0.60	17.9±1.5	56±6.0
1ヵ月	4.10±0.60	14.2±2.0	43±6.0
3ヵ月	3.70±0.35	11.3±1.0	33±3.0
6ヵ月	4.60±0.35	12.3±1.0	36±3.0
12ヵ月	4.60±0.40	11.6±0.75	36±1.5
1~4歳	4.70±0.35	12.6±0.5	38±1.5
4~12歳	4.80±0.30	13.0±1.0	40±2.5
成人男性	5.40±0.35	16.0±1.0	47±3.0
成人女性	4.80±0.30	14.0±1.0	42±2.5

※平均値±標準偏差 ※赤血球数単位は国際単位を使用 (×10¹²/L=×10⁶/μL)

末梢血液検査（血小板数）

1 結果

血小板数は、男女ともに全ての年齢区分において大きな変化はみられなかった。



2 項目の説明（血小板数）

感染症や白血病などを見つける手がかりとなります。

3 参考基準値（小児臨床検査ガイドより引用：2017年版）

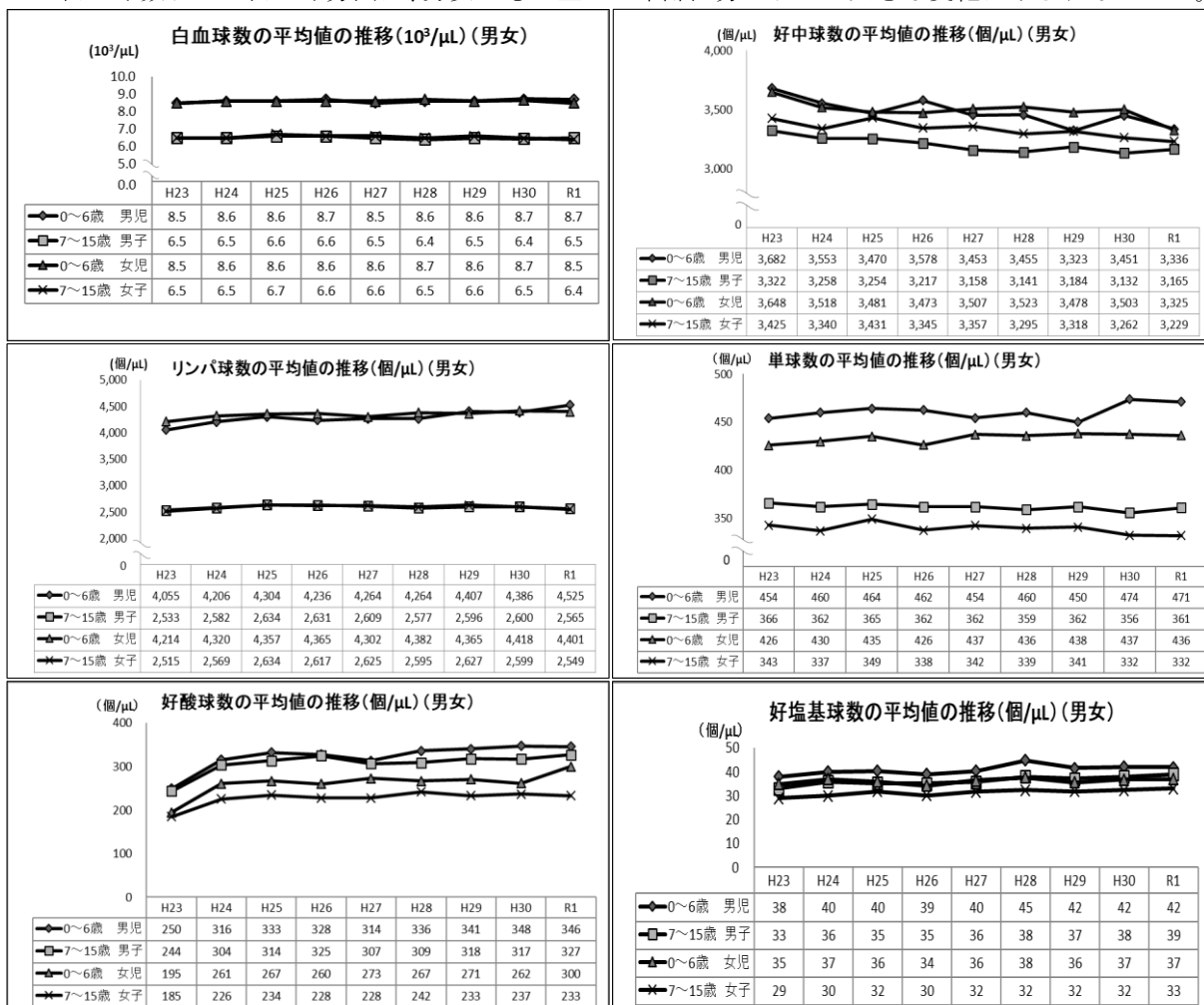
項目	基準値
血小板数(×10 ⁹ /L)	150～400

※血小板数単位は国際単位を使用（×10⁹/L=×10³/μL）

末梢血液検査（白血球数、白血球分画）

1 結果

白血球数および白血球分画は、男女ともに全ての年齢区分において大きな変化はみられなかった。



2 項目の説明（白血球数、白血球分画）

感染症や白血病などを見つける手がかりとなります。

3 参考基準値（小児臨床検査ガイドより引用：2017年版）

白血球数 (x10⁹/L)

年齢	平均値	95%信頼区間	年齢	平均値	95%信頼区間
出生時	18.1	9.0~30.0	1歳	11.4	6.0~17.5
12時間	22.8	13.0~38.0	2歳	10.6	6.0~17.0
24時間	18.9	9.4~34.0	4歳	9.1	5.5~15.5
1週	12.2	5.0~21.0	6歳	8.5	5.0~14.5
2週	11.4	5.0~20.0	8歳	8.3	4.5~13.5
1ヵ月	10.8	5.0~19.5	10歳	8.1	4.5~13.5
6ヵ月	11.9	6.0~17.5	16歳	7.8	4.5~13.0
			21歳	7.4	4.5~11.0

※白血球数単位は国際単位を使用 (x10⁹/L = x10³/μL)

好中球数、リンパ球数、単球数、好酸球数と割合

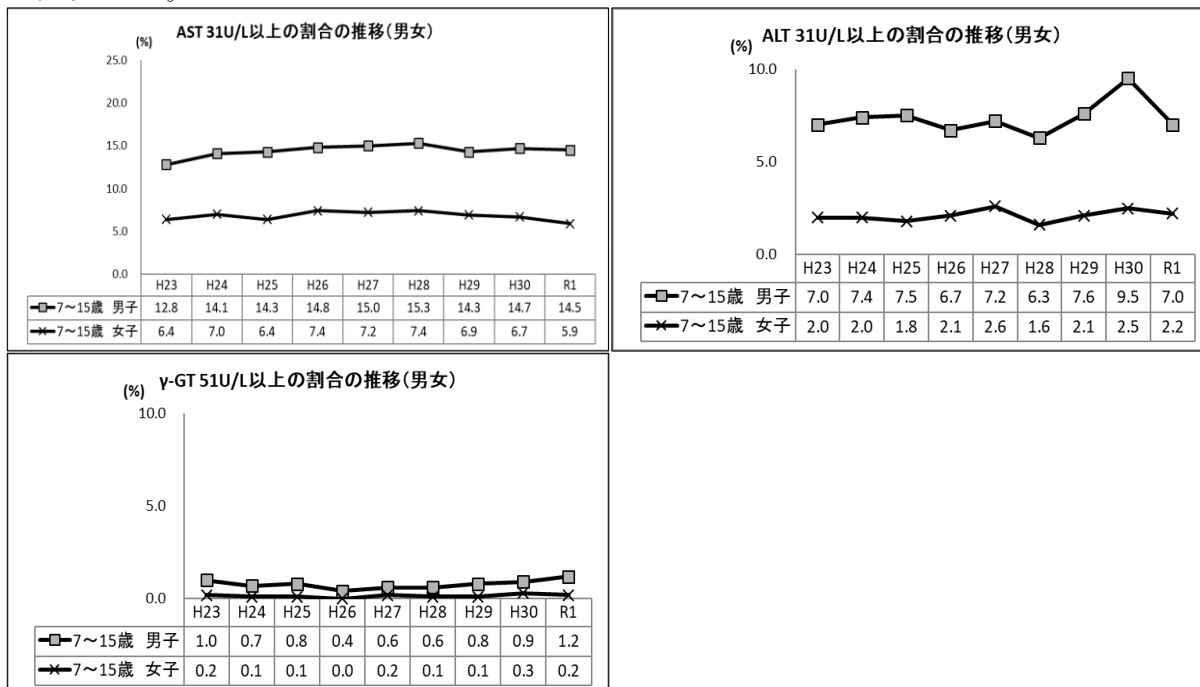
($\times 10^3/\mu\text{L}$, 範囲は95%信頼区間)

年齢	好中球数			リンパ球数			単球数		好酸球数	
	平均値	範囲	%	平均値	範囲	%	平均値	%	平均値	%
出生時	11.0	6.0~26.0	61	5.5	2.0~11.0	31	1.1	6	0.4	2
12時間	15.5	6.0~28.0	68	5.5	2.0~11.0	24	1.2	5	0.5	2
24時間	11.5	5.0~21.0	61	5.8	2.0~11.5	31	1.1	6	0.5	2
1週	5.5	1.5~10.0	45	5.0	2.0~17.0	41	1.1	9	0.5	4
2週	4.5	1.0~9.5	40	5.5	2.0~17.0	48	1.0	9	0.4	3
1ヵ月	3.8	1.0~9.0	35	6.0	2.5~16.5	56	0.7	7	0.3	3
6ヵ月	3.8	1.0~8.5	32	7.3	4.0~13.5	61	0.6	5	0.3	3
1歳	3.5	1.5~8.5	31	7.0	4.0~10.5	61	0.6	5	0.3	3
2歳	3.5	1.5~8.5	33	6.3	3.0~9.5	59	0.5	5	0.3	3
4歳	3.8	1.5~8.5	42	4.5	2.0~8.0	50	0.5	5	0.3	3
6歳	4.3	1.5~8.0	51	3.5	1.5~7.0	42	0.4	5	0.2	3
8歳	4.4	1.5~8.0	53	3.3	1.5~6.8	39	0.4	4	0.2	2
10歳	4.4	1.8~8.0	54	3.1	1.5~6.5	38	0.4	4	0.2	2
16歳	4.4	1.8~8.0	57	2.8	1.2~5.2	35	0.4	5	0.2	3
21歳	4.4	1.8~7.7	59	2.5	1.0~4.8	34	0.3	4	0.2	3

肝機能 (AST、ALT、 γ -GT)

1 結果

肝機能異常者は、全年度で女子と比較して男子に多くみられた。男女とも大きな変化はみられなかった。



※AST31U/L以上、ALT31U/L以上および γ -GT51U/L以上は、16歳以上の集団健診・個別健診で使用している判定基準。

2 項目の説明 (AST、ALT、 γ -GT)

肝臓の病気を見つける手がかりとなります。

3 参考基準値 (小児臨床検査ガイドより引用：2017年版)

AST (GOT) (U/L)

年齢	男性	女性
生後1ヵ月	19~61	20~71
生後6ヵ月	25~85	22~76
1歳	23~51	22~50
3歳	20~45	20~44
6歳	17~39	16~38
12歳	14~33	12~30
成人	30以下	

ALT (GPT) (U/L)

年齢	男性	女性
生後1ヵ月	10~50	11~68
生後6ヵ月	12~62	10~63
1歳	5~25	5~31
3歳	4~24	5~27
6歳	4~23	4~25
12歳	3~20	3~18
成人	30以下	

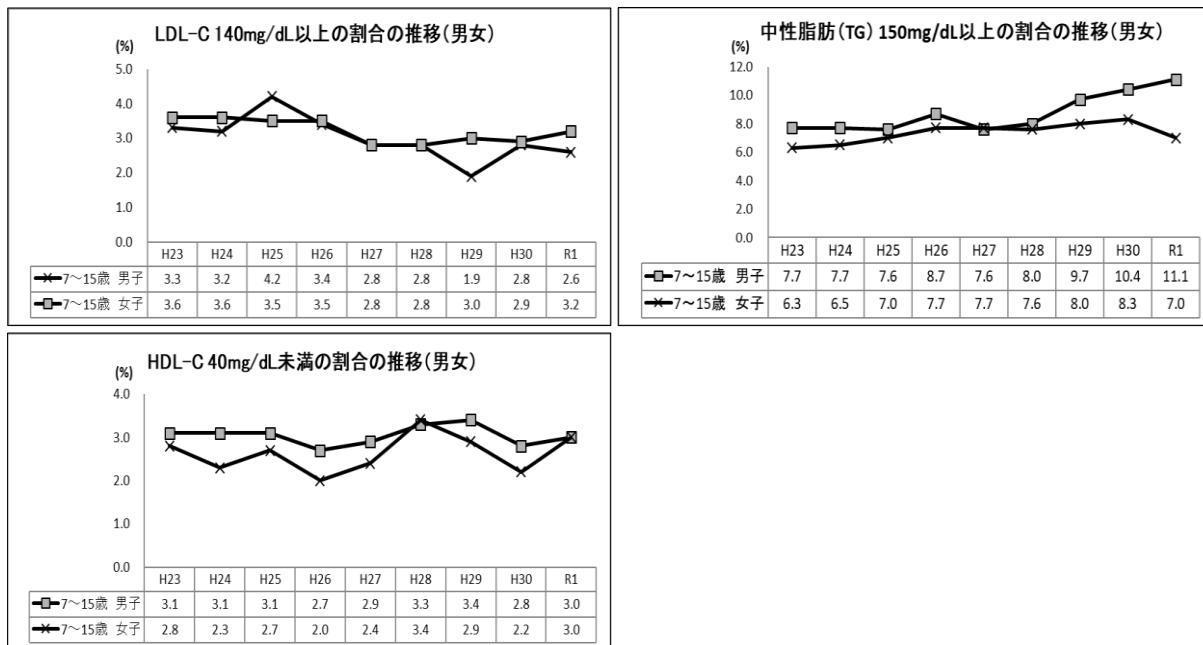
γ -GT (U/L)

	男性	女性
成人	0~50	0~30
小児から若年者	生後5~6ヵ月で成人レベルになる	
新生児	正常上限の5~6倍	

脂質 (LDL コレステロール、中性脂肪、HDL コレステロール)

1 結果

LDL-C 140mg/dL 以上の割合、中性脂肪 150mg/dL 以上の割合、HDL-C 40mg/dL 未満の割合は、男女で大きな差はみられなかった。男女とも大きな変化はみられなかった。



※LDL-C140mg/dL 以上、中性脂肪 150mg/dL 以上および HDL-C40mg/dL 未満は、16 歳以上の集団健診・個別健診で使用している判定基準。

2 項目の説明 (LDL コレステロール、中性脂肪、HDL コレステロール)

動脈硬化のなりやすさの程度をみます。

3 参考基準値 (小児臨床検査ガイドより引用 : 2017 年版)

中性脂肪 (TG) (mg/dL)

年齢	男性	女性
臍帯血	10~98	10~98
0~5 歳	30~86	32~99
6~11 歳	31~108	35~114
12~15 歳	36~138	41~138

HDL コレステロール (HDL-C) (mg/dL)、LDL コレステロール (LDL-C) (mg/dL)

項目	測定法	適正域	境界域	高値
HDL コレステロール	直接法	≥40	—	—
LDL コレステロール	直接法	<110	110~139	≥140

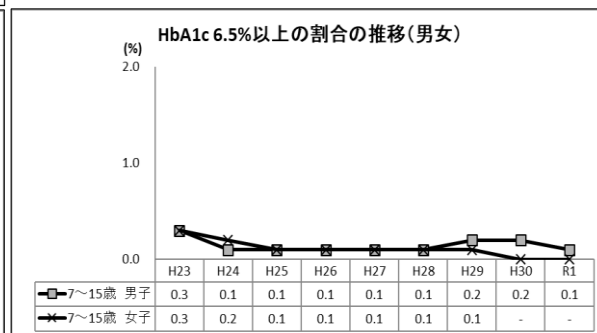
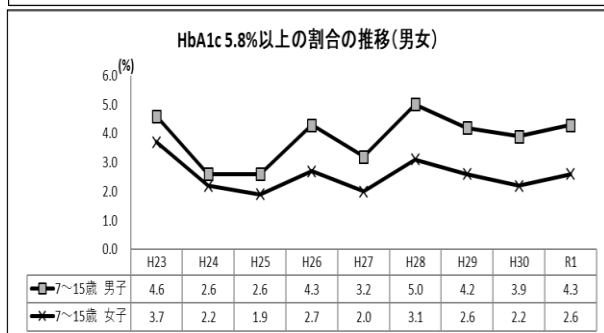
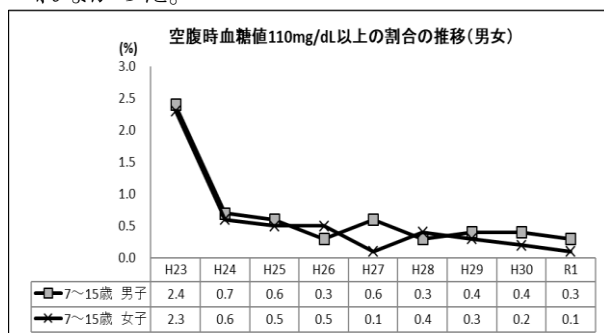
糖（空腹時血糖、HbA1c）

1 結果

空腹時血糖値 110mg/dL 以上の割合は、男女とも平成 23 年度をピークに平成 24 年度は減少し、それ以降は大きな変化は見られなかった。

HbA1c5.8%以上の割合は、男女で大きな差はみられなかった。男女とも、平成 23 年度から平成 25 年度にかけて減少し、その後は増加と減少を繰り返す傾向がみられた。

HbA1c6.5%以上の割合は、男女間で大きな差はみられず、また、男女とも大きな変化はみられなかった。



※HbA1c5.8%以上および6.5%以上は、「糖尿病治療ガイド 2020-2021」における境界型、糖尿病型の判定基準。

2 項目の説明（空腹時血糖、HbA1c）

糖尿病などを見つける手がかりとなります。

3 参考基準値（小児臨床検査ガイドより引用：2017年版）

項目	低血糖	正常域	糖尿病域
空腹時値 (mg/dL)		70~109	≥ 126
随時血糖値 (mg/dL)			≥ 200

* 低血糖基準

- ・ 新生児：45~50mg/dL 以下 (低血糖症診断基準における确实診断基準値：30mg/dL 以下)
- ・ 小児：65~70mg/dL 以下 (低血糖症診断基準における确实診断基準値：40mg/dL 以下)

* 高血糖基準

- ・ 空腹時血糖値：110mg/dL 未満を正常型、110mg/dL 以上 126mg/dL 未満を空腹時血糖異常、126mg/dL 以上を糖尿病型とする。
- ・ 随時血糖値 ≥ 200mg/dL 以上および HbA1c ≥ 6.5% の場合も糖尿病型とみなす。

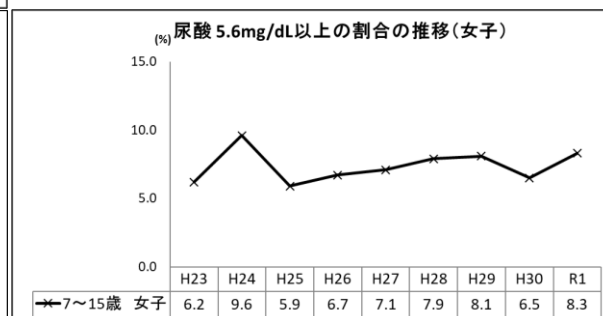
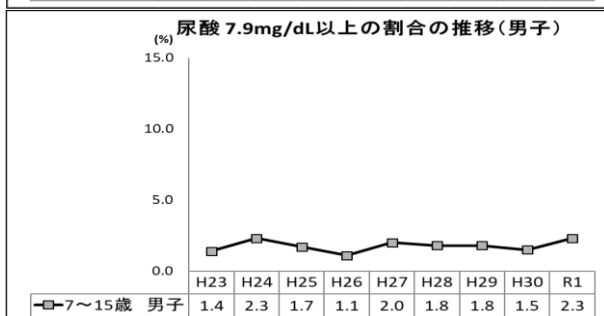
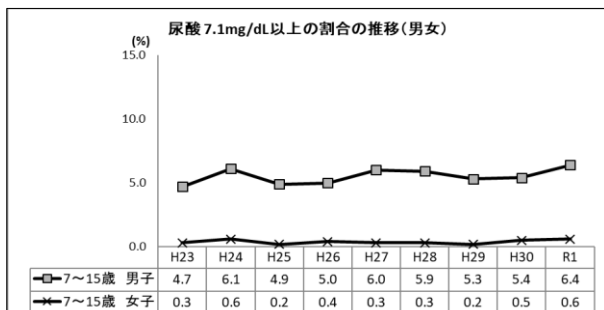
(日本糖尿病学会：糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告 (国際標準化対応版), 糖尿病 55 (7) 492, 2012 より一部改変)

項目	基準値
HbA1c (%) (NGSP 単位)	4.6~6.2

腎機能（尿酸）

1 結果

尿酸値 7.1mg/dL 以上の割合は、男女とも大きな変化はみられなかった。



※尿酸値 7.1mg/dL 以上は、日本痛風・核酸代謝学会作成「高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン」の定義による値。
尿酸値男子 7.9mg/dL 以上および女子 5.6mg/dL 以上は、日本臨床検査標準化協議会設定共用基準範囲の上限を超える値。

2 項目の説明（尿酸）

痛風などを見つける手がかりとなります。

3 参考基準値（小児臨床検査ガイドより引用：2017年版）

項目	基準値	
尿酸(UA) (mg/dL)	男	3.7~7.0
	女	2.5~7.0